

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

かみ

## 神さまに仕える

しょうねん

## 少年サムエル



ぶん  
文: E. Duncan Hughes

え  
絵: Janie Forest

かいさくしゃ  
改作者: Lyn Doerksen

ほんやくしゃ  
翻訳者: Yuko Kajiki  
監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ  
出版社: Bible for Children  
[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

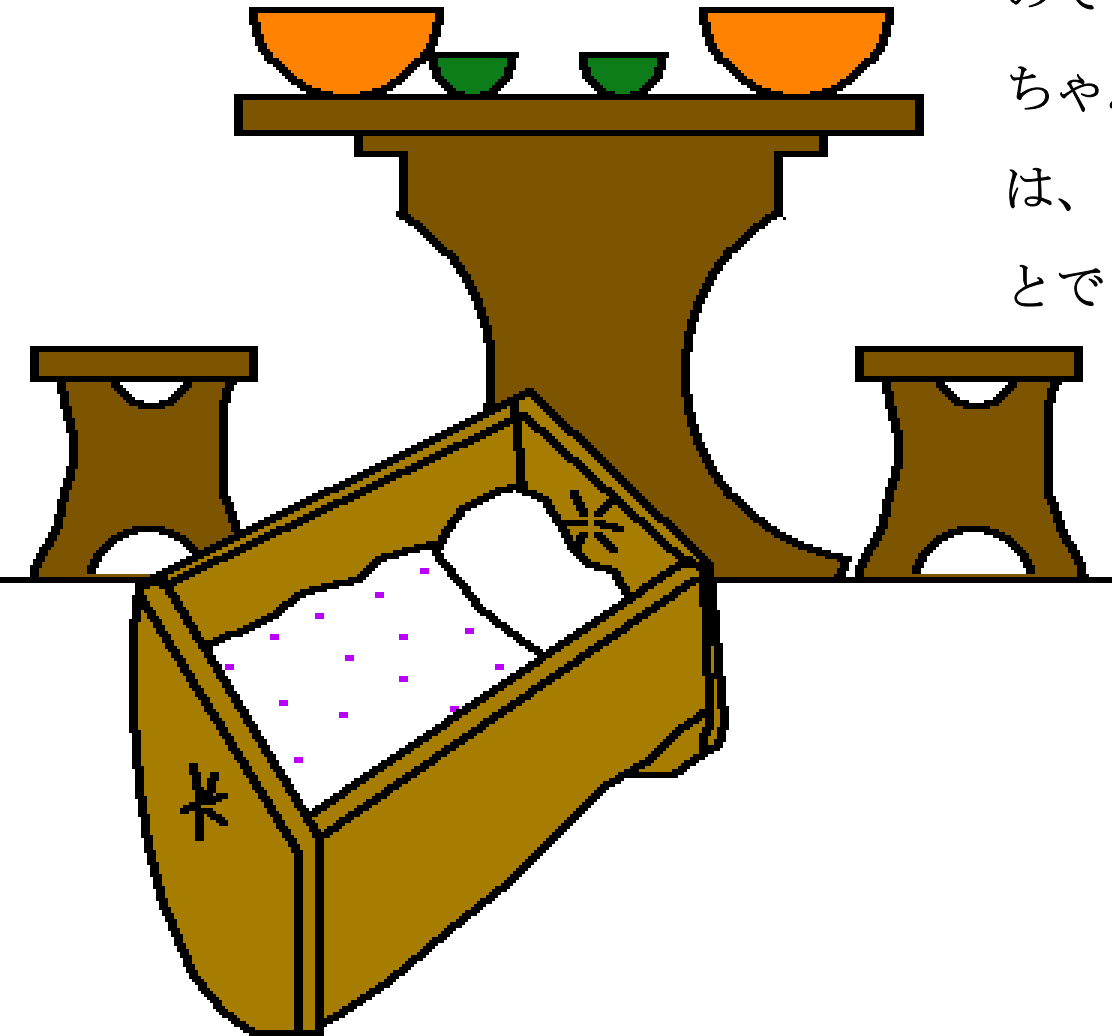
©2007 Bible for Children, Inc.

きよか 許可: たにん 他人に う 売らない かぎ 限り はなし このお話の また コピー、又はプリントは、  
きよか 許可されています。



ハンナという、とても心やさしい女の人がありましたよ。その夫エルカナも、  
ほんとうに良い人でした。2人とも神さまを礼拝し、ほかの人にもやさしくしん  
せつでした。でもね、ハンナは、なぜかさびしそう。何か思っていることがある

のでしょうか。じつは、ハンナは、赤  
ちゃんがほしかったのです。かの女  
は、どれほど赤ちゃんがほしかったこ  
とでしょう。まいにち祈りながら待ち  
ましたよ。きっと神さまが赤ちゃ  
んをくださるだろうと思い、たく  
さんたくさん祈って、待ちつづ  
けました。でも、神さまは、  
まだくださらないのです。





とし かみ しん  
まい年、ハンナは神さまの神  
れいはい い  
でんへ、礼拝に行きました。  
とし かみ  
ある年のこと、ハンナは神さ  
いの  
まに祈り、こうやくそくしま  
かみ おとこ  
した。「神さま、もし男の  
こ  
子をくださるのなら、わたし  
こ かみ つか  
はその子をいつまでも神に仕  
だ  
えるものして、さし出すで  
しょう。」





しん とし  
その神でんに、もう年をとっ  
ているエリという祭司がいま  
さいし  
した。かれは、ハンナが祈っ  
いの  
ているようすを見てこう思い  
み おも  
ましたよ。きっとハンナはぶ  
しゅ  
どう酒をのみすぎたにちがい

じょ くち  
ない。かの女の口びる  
は、ずっとうごいてい  
るのに、声はぜんぜん聞  
こえ き  
こえてこないじゃない  
か。そこで、エリは  
ハンナをしかり  
ました。

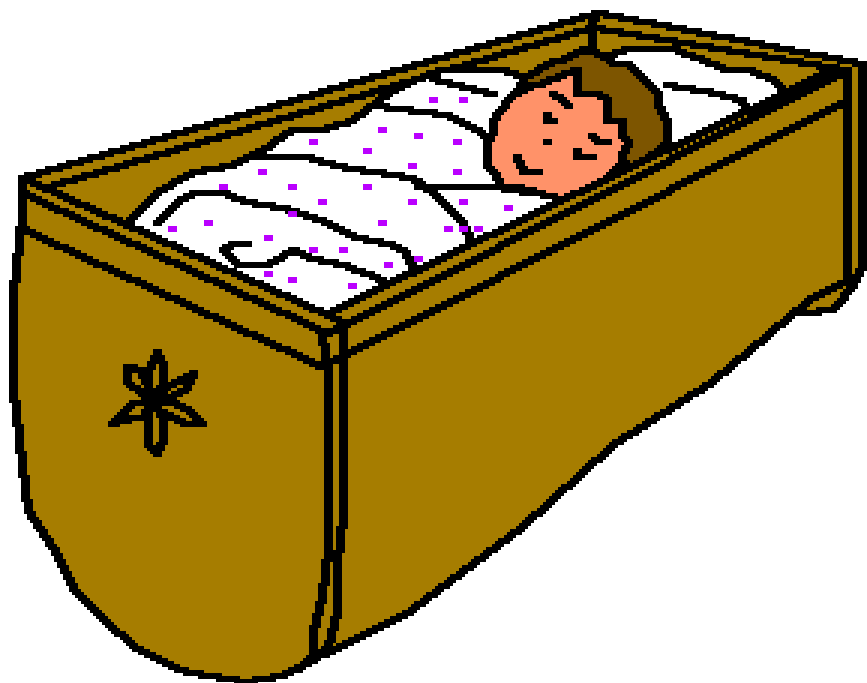




「いいえ、ちがうのです。  
わたしは<sup>さけ</sup>お酒をのんではい  
ません。」ハンナは、エリに  
こう<sup>い</sup>言いました。「わたしは、  
どうしても<sup>こ</sup>子どもがほしいのです。  
ですから、もし<sup>かみ</sup>くださったら、神に  
その子<sup>こ</sup>をささげるとやくそくをして  
いた<sup>き</sup>のです。」それを聞いたエリは、  
「どうぞ<sup>へいあん あた</sup>平安が与えられますよう  
に。」<sup>い</sup>と言って、ハンナをはげまし  
ました。「ハンナよ、イスラエルの  
神<sup>かみ</sup>さまは、きっとあなたのねがいを  
聞き<sup>き</sup>入れてくださるだろう。」  
これを<sup>き</sup>聞いたハンナ、ほんとうに  
うれしくなりましたよ。



そのすぐ後のことあとです。ハンナはほんとうにうれしそうです。なぜってね、主しゅが  
かの女じょをおぼえていてくださり、祈りにこたえられたのです。とうとう、ハンナ  
とエルカナにサムエルというかわいおとこい男この子うが生まれたのです。サムエルとい  
うのは、かみ「神にかなえられた」という意味ですいみよ。でも、ハンナは、主しゅとやくそ  
くしたことを、まだおぼえているでしょうか。ちょっとしんぱいですね。





とし かみ しん  
じつは、まい年、神さまの神でん  
れいはい い  
に礼拝に行っていたハンナが、どう  
い  
いうわけか行くのをやめてしまっ  
たのです。ああ、どうしましょう。  
かみ  
ハンナはやっぱり神さまとのやく  
そくをやぶってしまうつもりでし  
ょうか。いいえ、しんぱいしなく  
てもいいのですよ。ハンナは、た  
すこ おお  
だサムエルが少し大きくなるのを、  
まっていただけなのです。しゅ しん  
でんへ行って、エリのお手伝い  
てつだ  
をつか  
をして、神さまに仕えられるぐらい  
おお  
大きくなるまでね。だから、サムエ  
すこ おお  
ルが少し大きくなると、ちゃんと  
しん  
神でんへつれていきましたよ。





かみ こころ  
神さまは、ハンナが心  
かみ しん  
から神を信じ、したがっ  
ていることをたいそうよ  
ろこばれ、それからも  
さんにな ふたり  
3人のむすこと2人のむ  
すめをくださいました。  
もちろん、ハンナはまい  
とし かみ しん  
年、神さまの神でんに  
れいはい  
礼拝にいきましたよ。そ  
しん い  
して神でんへ行くたび  
に、サムエルのためにあ  
ふく づく も  
たらしい服を作り持って  
いきました。





ひとり

サムエルは、ただ1人で

<sup>てつだ</sup>

エリのお手伝いをしてい  
たわけじゃないのです。

エリには、ホフニとビネ

<sup>ふたり</sup>

ハスという2人のむすこ  
がいました。かれらもま

<sup>てつだ</sup>

た、エリのお手伝いをして、  
サムエルといっしょ  
にはたらいっていました。

<sup>かみ</sup>

けれども、かれらは「神  
さまなんかどうでもいい

<sup>い</sup>

よ。」と言って、よくない  
ことばかりしていました。  
た。





とう  
お父さんのエリが、<sup>ふたり</sup>2人  
<sup>かみ</sup>に神さまにしたがうよう  
にたのんだときでさえ  
<sup>き</sup>も、聞こうともしない  
で、<sup>わる</sup>やっぱり悪いことば  
かりしていました。エリ  
<sup>で</sup>はむすこたちに、「出て  
<sup>い</sup>行っておくれ。もうおま  
えたちは、ここではたらく  
くことはできない。」と  
<sup>い</sup>きっぱり言うべきだった  
のですね。でもエリはそ  
<sup>い</sup>う言わなかったのです。





ある夜のことで。サムエルはど  
こからか「サムエル、サムエル」  
と自分の名前を呼んでいる声が聞  
こえてきました。「きっとエリが  
ぼくを呼んでいるんだ。」と思っ  
たサムエルは、「ぼくはここにい  
ますよ。」とへんじをしました。  
ところが、「サムエル、わたし  
は、おまえを呼んでいないよ。」  
とエリはこう言うのです。同じこ  
とが3回もありましたよ。  
そのとき、エリはわかりました。  
神さまが、サムエルを呼ばれてい  
るのだと。そして、神さまは、サ  
ムエルに何か話そうとされ  
ていることがね。

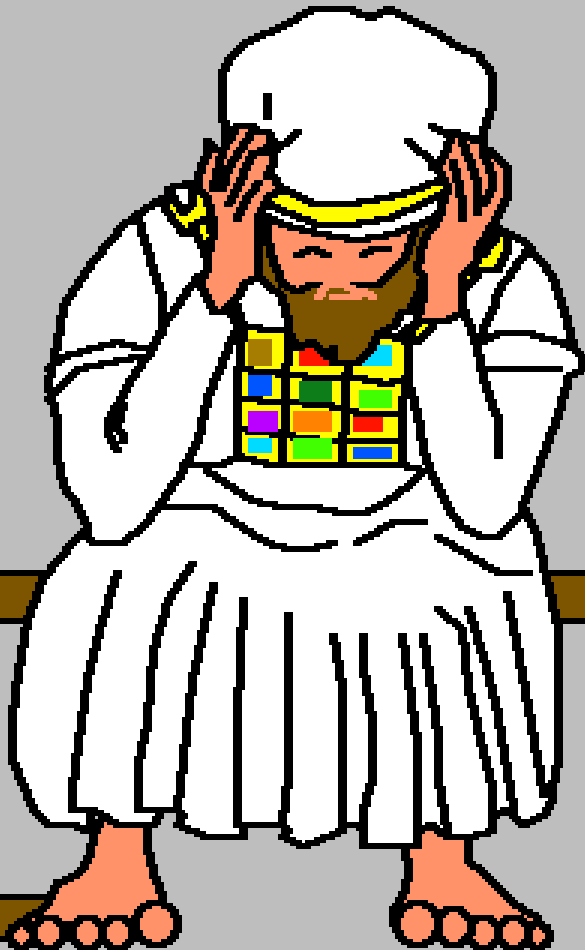




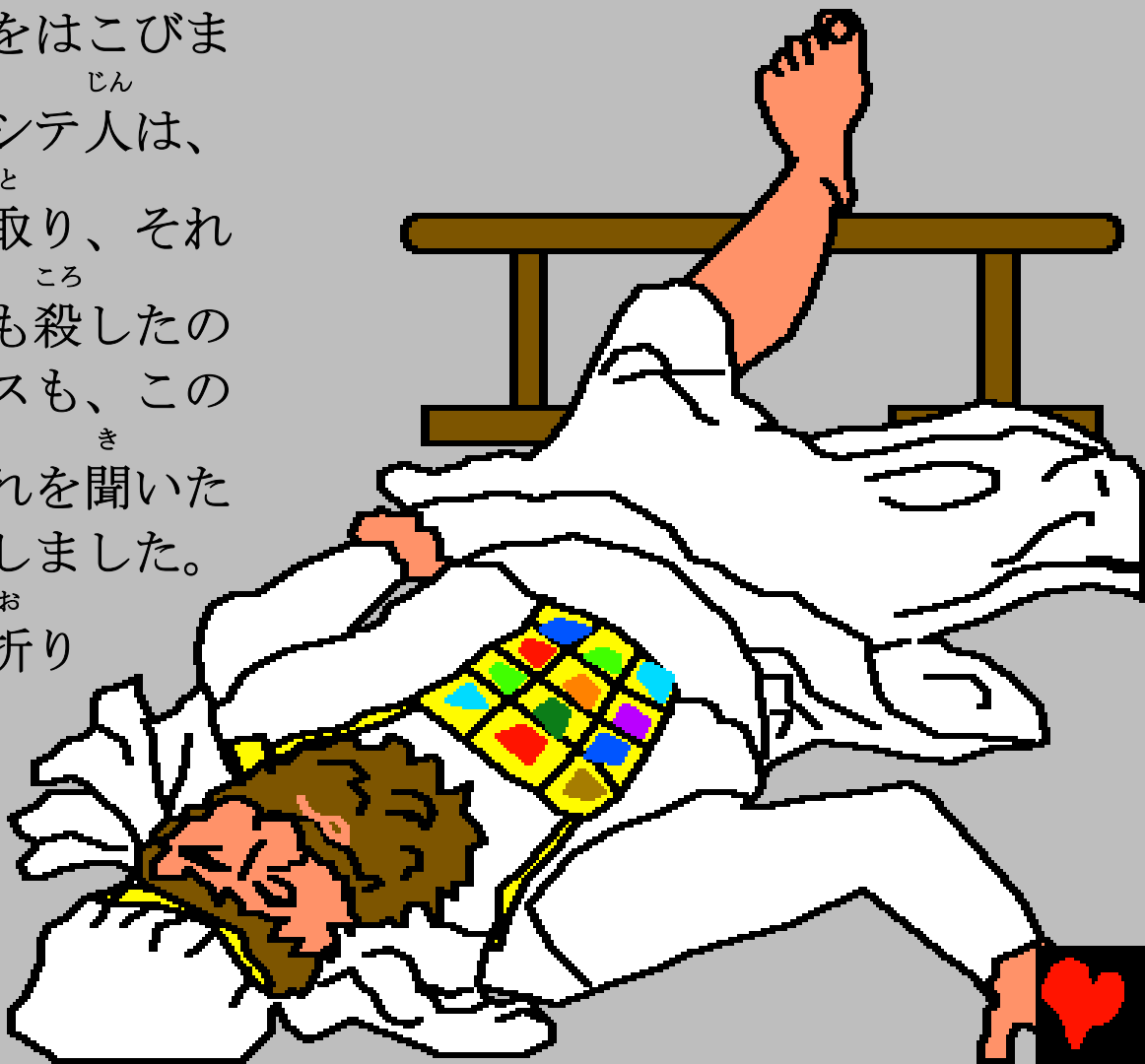
エリは、言いました。「サムエ  
ル、もし、もういちど名前を呼ば  
れたら、こう言うんだよ。はい、  
主よ、話してください。あなたの  
しもべはここにおります、って  
ね。」さて、それからまた、「サ  
ムエル、サムエル」って声が聞こ  
えてきました。そしてそこで、神  
さまは、サムエルにととても大切な  
ことを、話されたのです。



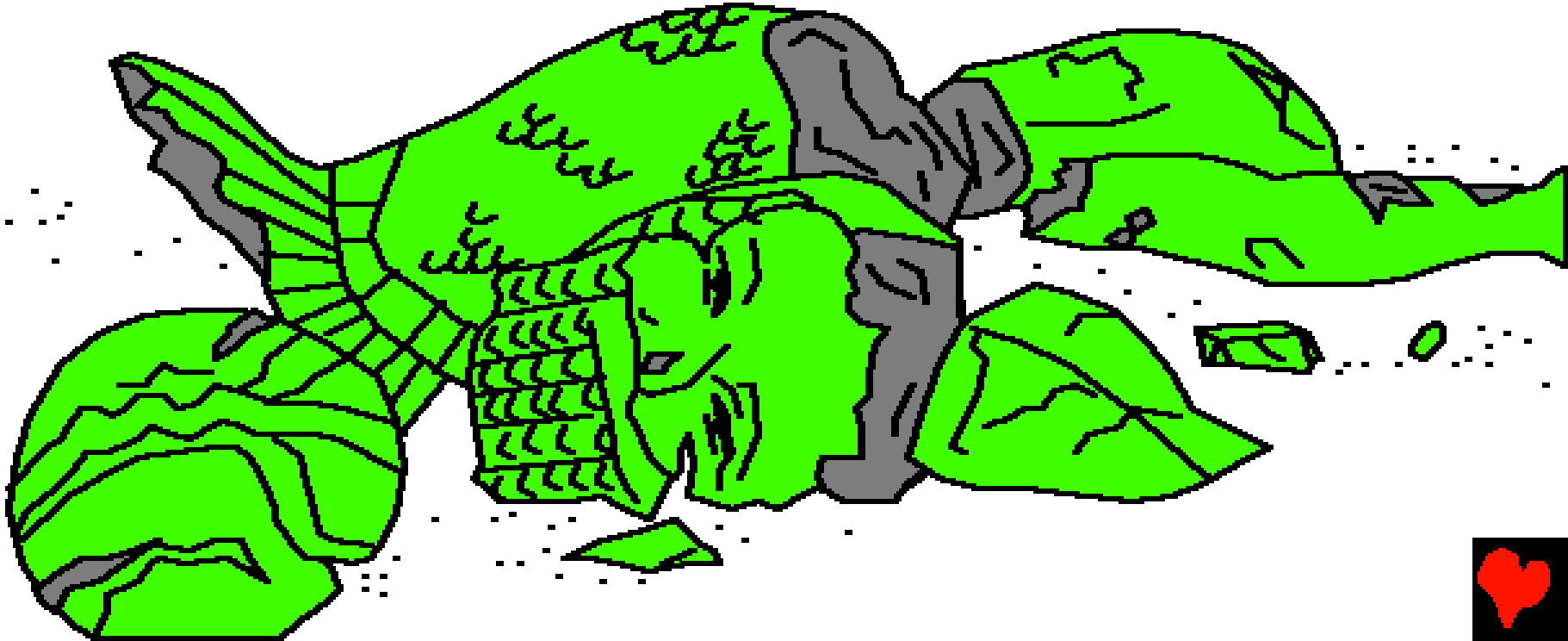
つぎの日の朝、エリはサムエルを呼んで、た  
ずねました。「さあ、話しておくれ。主は  
おまえにいったい何を話されたのかね？」そ  
れは、エリにとって良くない話だったので  
す。でもまだ子どものサムエルは、神さまが  
話されたとおりに、すべてエリにつたえたので  
す。それは、エリにとってひどく悪い話で  
した。神さまは、こういわれたのです。「わ  
たしは、エリの家族の人たちみんなほろぼし  
てしまうだろう。なぜなら、エリのむすこ、  
ホフニとビネハスがあまり  
にもひどすぎるからだ。」

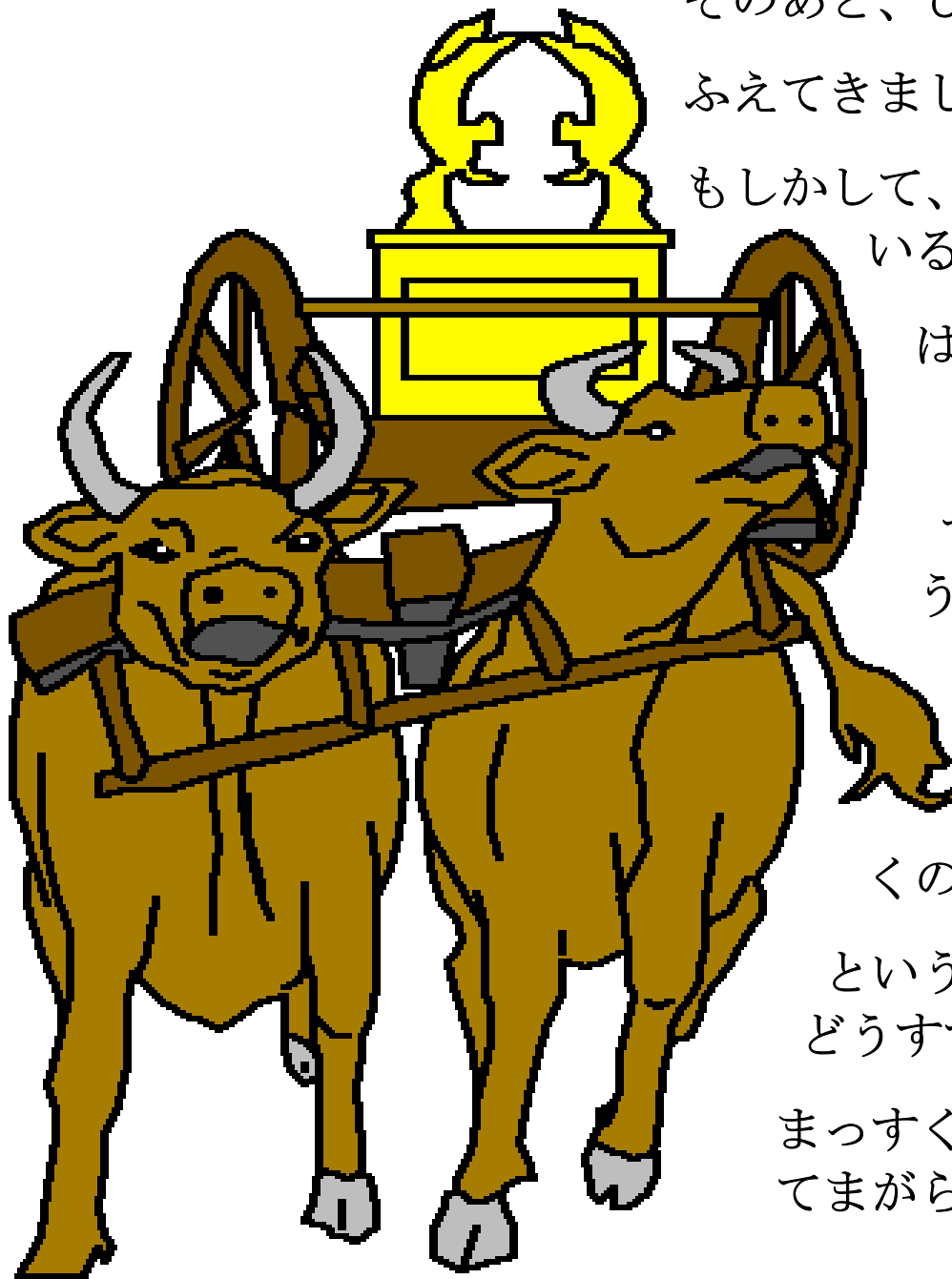


かみ い  
神さまの言われたことは、やっぱりほんとう  
うでした。ペリシテ人との戦いのあい  
ふたり わる  
だ、エリの2人の悪いむすこたちは、イス  
ぐん かみ はこ  
ラエルの軍のところに、神の箱をはこびま  
てき じん  
した。ところが、敵であるペリシテ人は、  
かみ はこ と  
その神の箱をかれらからうばい取り、それ  
じん ころ  
にまたたくさんのイスラエル人も殺したの  
です。もちろんホフニとビネハスも、この  
ころ き  
とき殺されてしまいました。これを聞いた  
エリは、ほんとうにがっくりとしました。  
お お くび お  
かれは、イスから落ちて、首を折り  
な  
とうとうその日のうちに亡くな  
ったのです。



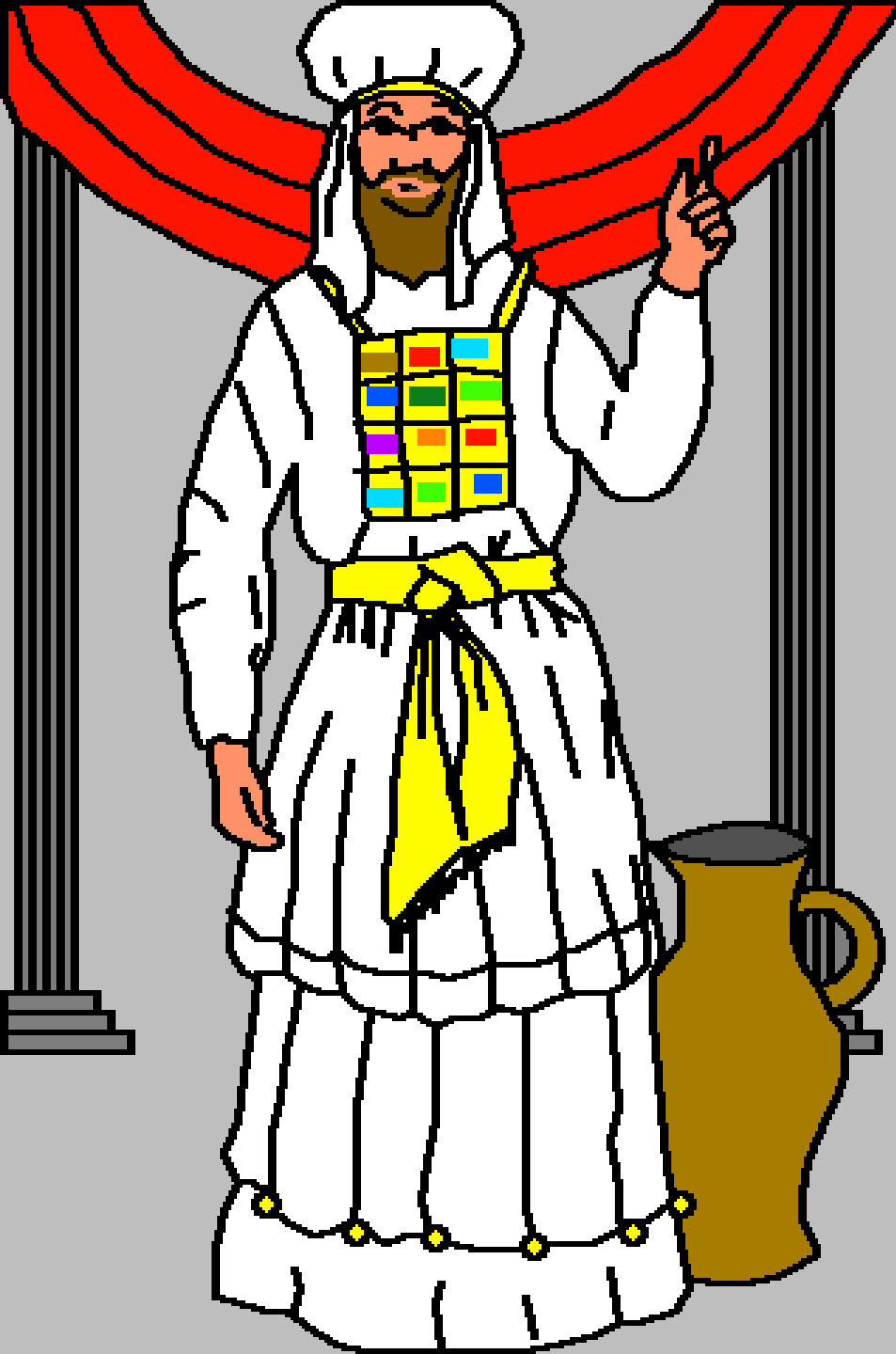
かみ はこ じん わる  
神さまの箱をもちかえったペリシテ人は、それからというもののいろいろな悪いこ  
とがおこるようになりました。かれらは、その神さまの箱を、にせの神タゴンの  
しん ひ あさ かみ  
神でんに、はこんだのですが……。つぎの日の朝、にせの神タゴンが、うつむ  
お  
きに落ちてたおれているのです。「どうしたことだろう。」と人々は、タゴンを  
ひ あさ お  
もとのところにおきました。ところが、そのつぎの日の朝です。タゴンがまた落  
て あし たい  
ちているのです。ひどいことに、こんどはあたまも、手も足も、そしてどう体  
も、みんなばらばらになっていましたよ。



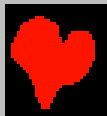


そのあと、ひどい病気が広がり、だんだん死ぬ人が  
ふえてきました。ペリシテ人は、こう思いました。  
もしかして、神さまが自分たちにばつを与えられて  
いるのかもしれないって。そこで、かれら  
は2とうのお母さん牛に、神さまの箱を  
のせた荷ぐるまをはこばせましたよ。  
でもね、そのお母さん牛の子牛たちは、  
うちにおいておきました。もし、ここで  
お母さん牛たちが、まっすぐイスラエ  
ルに向かい子牛のところをはなれて行  
くのなら、神さまがばつを与えられている  
ということなのです。さあ、お母さん牛は、  
どうすすんだのでしょうか。そう、まっすぐ  
まっすぐ、イスラエルに向かいましたよ。決して  
まがらずにね。





さて、そのころサムエルはどうして  
おとな  
いたでしょう。もう大人になってい  
ひとびと  
たサムエルは、イスラエルの人々に  
い  
こう言いました。「もし、みなさん  
こころ しゅ かえ  
が、心から主を信じ、主のもとに帰  
しゅ  
るなら、主はわたしたちをペリシテ  
じん しはい すく  
人の支配から、救いだしてくださる  
ひとびと  
でしょう。」人々はみんな、いつも  
かみ つか かみ った  
神さまに仕え神さまのことばを伝え  
しん  
るサムエルを信じ、そのことばにし  
たがうようになりました。だから  
かみ  
ね、それから神さまはいつでもサム  
エルがいるイスラエルを、ペリシテ  
じん まも  
人から守ってくださいましたよ。





おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っています。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、思っています。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくい、は、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとて愛していますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ し  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのです。もし、あなたがイエスさ  
しん  
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ  
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
わたし なか き つみ わたし いま  
いらしています。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす  
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

